

第2回笛吹市春日居町地域審議会・区長会合同説明会会議録

開催日時

平成29年9月27日（水）午後1時30分～

開催場所

めぐり情報ステーション 1階 ハイビジョンホール

出席者

- ・地域審議会委員
- ・区長会
- ・山下市長、小澤総務部長、深澤経営政策部長、風間保健福祉部長、遠藤公営企業部長、須田総務部次長、小宮山経営政策部次長、早川公営企業部次長、飯島保健福祉部次長、水谷税務課長、鈴木下水道課長、茂手木総務課総務担当L、保崎経営企画課政策推進担当
- ・事務局 風間支所長、地域住民課担当藤原L、岡本L

欠席者

- ・地域審議会委員：芦澤茂幸
- ・区長会：岡永喜、飯田政文、中村英夫

傍聴人 なし

次第（進行：支所長）

- ・互礼により開会

1. 開会（区長会副会長）

2. あいさつ

（地域審議会・区長会会長）

本日の合同説明会は、各地区において説明会が開催され様々な意見が出され、それらの意見を踏まえて、行政課題に対して方向性について説明がある。地域審議会・行政区長会としても、市発展のために一緒になって考え取組んでいけたらと思う。

（市長）

第1回目の説明会では市の現状を説明させていただいたが、第2回目の説明会ではある程度の方向性を示させていただき、意見をいただきたいと考えている。水道事業については、240億円の借金がある。財布から借金21億円支払いをしている。

上下水道料金だけでは事業が賄い切れないので、差額分の21億円を税金等で支払いをしている。平成38年までの財政見通しでは、少子高齢化により社会保障費は増加してくる。合併して特例債を使ってきたが、そろそろその償還が始まる。国からくるお金が1割以上減る平成32年からは、今の予算から10億円ほど減らさないとならない。基金から繰り入れをしていかなければならなくなっている。笛吹市の基金は今160億円あるが、実際は92億円しか使えないので、10年たったら無くなってしまう。1年間の入るお金と出るお金を同じ位にしないとならない。

下水道事業の計画も見直し、様々なことをやりながら皆さんにもお願いをして料金も今回 24.7%値上げさせていただかないとならない。

今年の当初予算は 311 億円、笛吹市になってから一番少ない予算となっている。

それでもまだダメなので、300 億円ぐらいの予算としていかないと立ち行かない。

南アルプス市や甲斐市が約 7 万人でほしい同じぐらいの人口となるが、甲斐市は 3 町が合併して非常にコンパクトだが一般会計で 250~260 億円ぐらいとなっている。この 1~2 年は未来に向かっていく枠組みを作っていく必要がある。取組みを行っていかないと未来はないと思っている。基金には限界がある。水道料金の改定の話聞いていただきたい。

都市計画税の話は、先ほどの話と矛盾するが、上下水道使用料と両方となると市民生活にも影響がある。都市計画税については当面の間、徴収は行わない。

支所の見直しについては、財政が厳しいということで事務職員は 1 人減となるが、地域サポーターを支所に配置して、地域の安協や老人クラブなどの活動を手伝いが出来たらと考えている。

以上のことを理解いただきながら、聞いていただきたいと思っている。

3. 議事（座長：地域審議会会長）

(1) 上下水道料金の改定(案)について

（公営企業部長）

【資料に基づき、説明。】

資料：「上下水道料金の改定(案)について」

（地域審議会委員）

会議に出席している方は状況を理解でき必要性もわかるが、一般の方はどのような手段で周知するのか。

（総務部長）

区長や役員等で話題に出していただき、お知らせいただきたい。

またこの後、市長と語るまちづくり座談会を予定している。広報や笛吹市の様々なツールを使用して説明をしていきたいと思っている。

支所の問題については、特定の利用者が支所を利用しており、担当部局から早目に説明しないと理解をいただけない。色々な手段により周知を図り皆様に理解をいただきたいと考えている。

（地域審議会委員）

市長に尋ねる。料金値上げの理由の一つに人口減少があるが、日本で一番移住したいのは山梨県という中で、人口減少に対してどんな対策を考えているのか。

（市長）

移住対策は、一生懸命に取り組む必要がある。山梨市では移住してくる人達のためにアパートなど、移住希望者に貸す取り組みを市役所で行っているが、全然登録がないとのこと。芦川では家を貸す登録があると思っていたが、空き家であっても夏の時期だけ避暑で使うとか、仏壇が置いてあるので人に貸したくないといった理由で登録をしていただけていない。東京にも移住の相談スペースがあり広報している

が、山梨県に移住したいとの声はある中で、全県的に移住者が増えているかという希望者の数字ほど山梨県に移住をしていない。出来るだけ移住希望者とマッチングが出来るように取り組んでいる。

笛吹市は現在、アパートだけしか取り組みをしていないが、山梨市は空き事業所や空き店舗まで手を伸ばし、移住者だけでなく、商売にくる人にまで取り組みをしている。笛吹市でも考えていきたいと思っているが、山梨市でも実績は上がってはいない状況。不動産屋のようなことをする訳だが、笛吹市にも笛吹不動産協会があるので、民の力を借りながら官が旗を振っていくという方が、幅が広く取組めるのではと思っている。今は、官だけで行っているのを民を取り入れながら取り組みをしていきたい。

(地域審議会委員)

移住してもらうには、2つの意見に分かれると思う、1つはお年寄りを引き受けて高齢者を増やせと、そうすれば若い人の仕事も増える。もう1つは、人口が増えているところを見ると、若い人達が子供を育てやすいとか仕事があるところとか、高齢者とか若い人とかの区分けはおかしいのかもしれないが、大きなポイントだと思うので、じっくり研究していただいて取組んでいただきたい。

(市長)

ターゲットを高齢者にするのか、若い人達にするのかで、全く政策は変わってくる。高齢者政策としては、東京都では特別養護老人ホームを作ると金額が高いので、お金を出すので田舎に作って東京都の高齢者を引き取ってくれと。住民票があるところでお金が掛かるから施設があるところには迷惑は掛からないで、ヘルパーやケアマネなどの仕事のできるのとのことだが、笛吹では施設や病院で働く人の不足となっている。若い人対策はやらないとならないと考えているが、企業立地を行っていきたくて考えている。境川町の大坪や八代町南のスマートインター付近など補助金等も利用して企業誘致を行いたいと考えている。若い人は仕事が無いと話にならない。仕事を持ち定住すれば、空家やアパートを買っていただいたりもするので、長期的に企業対策をしていきたいと考えている。

先日の議会でも、農業・観光と産業は3本の矢という話が出たが、企業誘致は今かなり引き合いがある。八代にスマートインターが出来たというのも大きいし、桂林バイパスが出来て道がよくなったので、企業が非常に集中しているので条件が良いと思う。境川ではシチズン電子、御坂の金川原では蒲郡オレンジパークが入り150人位雇用が出来るとのこと。

高齢者は今いる方で、わざわざ東京など他から連れてくるなどとは考えていない。

高齢者の人達も守っていきながら、新しい若い人達に笛吹市に来ていただけるような政策をしていきたいと思っている。

(区長)

水道未収率20%は漏水と考えているのか。今後の改定は有収率80%で計算されているのか。

(公営企業部長)

有収率80%というのは、全体の供給量からお金に結びついたのが80%となり、

残りの 20%は漏水等が考えられる。出来るだけ漏水調査をして、有収率を上げていくように考えている。

(区長)

20%は漏れているとのことだが、これから水道管の老朽化も進んできて増えてくる。この対策をしていかなければならないのでは、20%は大きい。漏水対策の予算を盛り込んだ対応をしていただきたいと思います。

(公営企業部長)

20%はお金にならない部分だが、漏水の他に末端で水が腐らないように循環させていたりする分だったり、地区で使っている公民館の水の分も含まれている。

(区長)

試算している水道料金と下水道料金の関係で、下水道の方は毎年上がっているのに対して、水道の方は年々収入が下がっている。30 年度に料金が改定になって、また下がっている。その理由はどのようなことなのか。

(公営企業部長)

水道料金については、管路についてはほぼ 100%整備がされている。人口が徐々に減ってしまうと使用料は減っていくと、推計では徐々に減っていくとしている。

下水道会計については、まだ市内全域に普及しているわけではないので、管路の更新をしていく中で、接続していただく戸数が増えていくと、人口減少で減っていくよりも増えると試算しているの若干だが右肩上がりとなっている。

(2) 都市計画税の取り扱い(案)について

(総務部長)

【資料に基づき説明。】

資料：「都市計画税の取り扱い(案)について」

質疑、特に無し

(3) 支所業務の見直し(案)について

(総務課長)

【資料に基づき、説明。】

資料：「平成 30 年度 4 月実施一支所業務の見直しの概要 (案)」

(地域審議会委員)

支所業務の見直しをすることで、どの位お金の効果があるのか。

(総務部長)

金額的な話になると、6 名分が多少変わってくる。1 人あたり 500 万だとすると 2 千万 3 千万円だが、7 万人の笛吹市が生まれて専門性を持った職員を育成し県や国に対してしっかり話をし、アイデアを出し、専門的な勉強もする。

これからの自治体は、アイデアがないところは置いていかれ、アイデアを出して生き残る努力をなささいといった風潮になってきている。そのためには本庁では、専門性を持った職員やしっかり勉強してプロジェクトをしなければならない。

支所は支所で今までのようなサービスを市民にしなければいけない。

一昨年、まち・ひと・しごと総合戦略を策定する中で、笛吹市ではアイデアを出し、国から概ね2億円のお金をいただいた。市がアイデアを出したことにより、100%国から補助金をもらった。機能を分けることによって、お金を獲得していきたいと考えている。

企業誘致もしっかりと対応することによって企業がきていただける。今までの役場の機能を残すという住民に対する目線は、職員の研鑽を積みながら変わらないように、時には良いようにしながら残していきたいと考えている。

(地域審議会委員)

夕張のようにならないようにしてもらいたい。

(4) その他

(区長)

一級河川の金比羅川が流れているが、春日居町の時代に2つの土建会社が工事をしたが、土手の下を水が流れている。一級河川なので県とも相談して対応をすることだが、草の堆積などみられ夏の河川清掃をして泥上げも行っているが、中々泥上げではすまない状況だ。また、土砂を上げるけど捨てる場所がなくて苦慮している。県とも相談して問題なく流れるようにしていただきたい。

(市長)

担当からよく聞きたいと思っている。

(経営企画課長)

手元に10月に開催するまちづくり座談会のチラシを配布した。今日の内容を市民の皆さんに説明する。9月末の広報ふえふき10月号にも掲載する。地域の多くの人にPR願う。

(座長)

他になれば、以上で議事を終了する。

4. その他

○第47回春日居町文化祭」のご案内

日時：平成29年10月21日(土)22日(日)

場所：春日居あぐり情報ステーション、福祉会館

○区長会視察研修出欠の確認

5. 閉会

互礼を交わし終了(午後3時18分)